

平成 24 年度採択 申請区分 I ⑥ 愛媛大学（香川大学、高知大学）

「日本・インドネシアの農山漁村で展開する 6 大学協働サービスラーニング・プログラム」

●相手大学・機関

ガジャマダ大学（インドネシア）、ボゴール農業大学（インドネシア）、ハサヌディン大学（インドネシア）

●主な活動内容（概要）

日本・インドネシア 6 大学（愛媛大、香川大、高知大、ガジャマダ大、ボゴール農業大、ハサヌディン大）で構成する SUIJI コンソーシアムの下、学士、修士、博士課程における多層的な双方向の共同教育プログラムを実施している。学士課程では、6 大学の学生が両国の農山漁村で約 3 週間にわたって共に滞在し、現実の課題に取り組みながら学ぶサービスラーニング・プログラム、修士課程では、日・イで農学系分野における共同学位（ジョイント・ディグリー）プログラムを既に実施し、博士課程においても、農学系分野での共同学位プログラムに関する覚書を締結し（H26 年 9 月）、H27 年度から募集開始予定である。

●プログラムの現状・課題、成功事例

（単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等）

現状・課題

- 文部科学省からだされた国際連携教育課程に関するガイドラインを踏まえ、本プログラムが実施してきた共同学位プログラムの枠組み・内容の検討をはじめた（インドネシアの高等教育局の共同学位設置基準とのすり合わせが必要）。
- インドネシアに学生を長期派遣する際、必要なビザの取得に数ヶ月がかかり、学生の選考・決定からインドネシアでの学期開始までに取得が困難（渡航後のビザ切替などで対応しているが手続きが煩雑。留学のビザ手続きに関わる何らかの措置が望まれる）。
- 修士課程の日本人学生は、就職活動などの関係から、4～6 ヶ月程度の留学を希望するケースが多く、インドネシアの学期に応じた留学が難しい場合がある（インドネシア側大学が集中講義で必修科目を開講するなどに対応）。
- インドネシアからの留学ニーズは高いが、活用できる奨学金枠が限られている。インドネシア側での奨学金リソースの開拓を日・イ連携で進めつつある。
- 本プログラムへの参加を契機に、学士課程でインドネシアに留学（数ヶ月から 1 年程度）を希望する学生が複数出ている。留年せずに卒業に至れるような制度の検討が必要。

成功事例

○学士課程では、本プログラムへの参加を契機に、トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラムや東南アジア青年の船などのプログラムに積極的に応募し、海外をめざす学生が出てきた。

○修士課程では、共同学位プログラムを修了した日本人学生が留学経験を活かし、インドネシアで事業展開する企業に就職した（これまでに2名）。

○プログラムに参加した日・イの学生間で SNS を通じたネットワークが形成され、次期の派遣・受入学生のサポートのほか、プログラム参加をきっかけとした地域貢献活動が日本・インドネシア双方で展開している（小豆島における棚田保全活動、インドネシアにおける「ゴミ学校」など）。

●学生交流数

	平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
受 入	—	—	28	19	37	39	55	51
派 遣	—	—	31	2	51	66	69	50

（※）予定含む